

事業所名 グループホーム庄の里「なごみの家」
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年11月11日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 特別養護老人ホーム勤務
資格・経験 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 支援相談員
資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針として、「・挨拶、笑顔、やさしさ、親切 ・サービス計画に心を元気にするメニューを取り入れ、その人の生活を心こめて援助していく」を掲げ、入居者の経験を大切にした、その人らしい生活の場の提供をめざしている。 入居者が地域に出かけて行くだけでなく、地域の中の拠点として、地域の人々がグループホームに立ち寄っていく場面も増やせるよう地域の人々との親交を深め、入居者の楽しみや活動の機会が広がるように心がけている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用		○
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 入居者に安心して過ごしてもらえるよう、できるだけ入居者と一緒に過ごす時間を取ることを心がけている。また、ゆっくりゆったりとした態度で入居者と接し、穏やかな生活の場の提供に取り組んでいる。 入居者一人ひとりのその人らしい暮らしや尊厳を大切にしながら、これまでの生活歴や経験を活かせる役割作りを行い、楽しみや張り合いのある生活が送れるように心がけている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		○
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- 倉敷市の郊外の静かな田園地帯の中にホームはある。周辺には史跡や神社などもあり、空気の良い落ち着いた環境の中で入居者は生活している。
- 「地域の方が、地域でそのまま生活できる場を」との代表者の想いから設立されたグループホームで、その信条は職員にも浸透しており、入居者一人ひとりの思いを大切に支援を行っている。
- 調理や片付け・ちぎり絵作品作りなど、一人ひとりの生活歴や力を活かした楽しみや役割作りを行い、やり甲斐や張り合いのある生活の場を提供し、入居者が明るく笑顔で暮らせるように取り組んでいる。
- 共用空間は、木を基調とした内装で天井も高く、とても居心地が良い。居室は日当たりも良く、大きな窓からは心地良い風が入って来る等、五感に働きかける様々な刺激がある。
- 入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう、型にはまらないその人らしさを尊重した生活の支援を心がけている。

特に改善の余地があるとと思われる点(記述)

- 開設してまだ1年ということもあり、建物の外周りの活用や介護計画書等記録類の整備はこれからの課題ではあるが、入居者への安定した支援を提供するため、ケアサービスの質の向上に向けて日々努力している姿勢がうかがえる。職員の研修にも力を入れており、今後の更なる発展を期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> 調理・後片付け、ちぎり絵作品の作成など、入居者のこれまでの生活や経験をホームでの暮らしの中に活かせる役割作りを行っている。一人で出来る事や好きな事を持てる力を発揮してもらい、心身共に元気になる生活の提供を心がけている。 入居者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、居室やトイレ、浴室などへ入る時には、必ずノックをして声を掛けてから入り、入居者が安心して居心地良くホームで生活してもらえるよう心がけている。 時に、部屋の中から施設してしばらくの間一人で過ごす方もおられるが、できるだけ自由に入居者のペースで暮らしてもらえるよう、「自分の時間を持つ」ことを大切に受け止めて支援している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> より質の高いサービスを提供するため、職員研修を積極的にを行い、職員の育成に努めている。系列の介護老人福祉施設の研修にも参加し、研修内容は、職員全員で共有できるように資料を回覧して情報の共有を図り、全職員が技術や知識を高められるように取り組んでいる。 職員のストレスについても配慮しており、職員同士の意思の疎通が図れるようコミュニケーションを大切にするとともに、職員のストレスの緩和に努めている。 入居者について何か問題が発生した時には、職員間で十分に検討し、共通認識を深めたうえで現場で実践するようにしている。 		